

121119 クロスズメバチ

金剛山の山頂付近で、黒と白の2色の小さなハチを見つけました。

標高1,000mを超えるこの地では、11月に入ると明け方の気温が5 前後まで冷え込む日もありますので、ハチを始め多くの昆虫と出会うことが少なくなりました。

このハチ、実はスズメバチの仲間「シダクロスズメバチ」という種類なのです。

主に地中に巣を作りますので、少し暖かくなった日中に巣から出てきたのでしょうか。

一般的に「スズメバチ」と聞くと、結構大型(体長30~40mmくらい)で黄色と黒の縞模様、という姿を思い浮かべる方も多いでしょうが、この種の属する「クロスズメバチ」の仲間は体が小さい(体長10mm前後)ことから、あまり知られていないようです。

攻撃性や毒性も、大型のスズメバチに比べればそれほど強くはありませんが、土中などにある巣に危険が迫ると攻撃してきますので、油断は禁物です。

「クロスズメバチ」の仲間は、本州では5種いるそうですが、主な生息地は山地などの自然が豊かなところで、都市部や住宅街等で営巣することはほとんどありません。

中でもこの「シダクロスズメバチ」と「クロスズメバチ」の2種は、外見が非常に似ており、見分けは極めて困難ですが、「シダクロスズメバチ」は高標高地(300m以上)を好んで生息していますので、金剛山頂付近のような場所で見つければまず本種だと言えるでしょうね。

写真 ~ : シダクロスズメバチ

金剛山頂付近で撮影しました。(11月上旬)

先日、金剛山頂で初雪が記録されましたが、既にこの巣も終焉を迎えたものと思われるます。

写真 ・ : クロスズメバチ

河内長野市域の里山で撮影しました。(11月中旬)

本種の活動開始期は、他のスズメバチに比べて早く、越冬した新女王バチは3月下旬頃から活動を始めます。(キイロスズメバチも早いですが...)

そして活動期間も長く、12月頃まで続くことがあります。

これら2種の見分け方は、

- 1) 「シダクロスズメバチ」は顔の中央の黒線が大顎の上部まで達しているが、「クロスズメバチ」は、顔の真ん中辺りで止まっている
- 2) 「シダクロスズメバチ」の複眼内側の白色部がえぐれている

という点がポイントになりますが、

別添写真の と を比較して、その違いが分かるでしょうか？

また、これら2種は「へぼ」或いは「地蜂」などと呼ばれ、秋に巣を採取されて幼虫や蛹を“珍味”として、人間に食べられたりするので...











